

2010年度
近畿YOC審判講習会
参加者報告書

-
- 【日 時】 2010年8月7日（土）～8月8日（日）
【場 所】 河南総合体育館
【大 会】 第48回近畿地区国立大学体育大会
【参加者】 （京都からの講習生）小出 聡子・井関 健一郎

1. 報告者		小出 聡子		
2. 従事した試合				
	回戦	Aチーム	VS	Bチーム
	主審	副審		講師
①	女子1回戦	大阪大	VS	奈良女子大
	小出(京都)	平田氏(和歌山)		山崎氏(大阪)
②	女子2回戦	大阪教育大	VS	滋賀大
	小出(京都)	野々下氏(奈良)		永山氏(兵庫)
③			VS	
3. 感想				
<p>今年度より私の公認審判員としての活動が始まり、現在までの短期間で様々な経験の場を与えていただきました。そして今回、近畿YOCに参加するにあたって、今までの自分の課題を整理し、課題を明確にした上で臨みました。具体的には、「四原則を意識する」「判定のための適切なポジション取りを追求する」の二つです。</p> <p>実際のゲームの中では、それらを意識していたにも関わらず、ボールに集中してしまったために足が止まり、遠い位置から無理に判定を行ってしまう場面や、実際に現象が起こる以前に、タイミングのみで決めつけの判定を行ってしまう場面等もあり、これらが以前からの継続的な自分の課題だと感じました。また、ゲームの開始後にメカニックの部分でレフリー間でのコミュニケーション不足が露呈し、あわてて打ち合わせることもあり、プレゲームカンファレンス(内容の充実)の必要性を痛感しました。</p> <p>今回の近畿YOCの中で行われた講義講習会では「たくさんの経験を積むこと」「人間性を磨くこと」が特に印象に残っています。実技講習会では、実際に経験することはもちろん、講師の先生に指摘していただいたり、他のレフリーに講評をしてもらったりすることで、今後の活動に向けて新たな自分の課題を見つけることができました。</p> <p>また、他府県の同年代のレフリー達と二日間過ごす中で、彼らの審判活動に対する意識の高さや積極的な姿勢に共感すると同時に驚きも感じました。これまで、先輩レフリーの間で、自分がいかに活動の場を与えていただくことに甘えていたか、自分がいかに受け身の姿勢でいたかということに気づかされました。今後も審判活動を続けていく中で、向上心・追求心を忘れず、選手・ベンチ・観客からともに信頼される審判となれるよう、積極的な活動をしていきたいと思えます。</p> <p>今回、貴重な体験の場を与えていただき、本当にありがとうございました。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。</p>				

1. 報告者		井関 健一郎		
2. 従事した試合				
	回戦	Aチーム	VS	Bチーム
	主審	副審		講師
①	男子1回戦	京都大	VS	和歌山大
	井関 (京都)	上田 (滋賀)		島田氏 (兵庫)
②	男子2回戦	滋賀大	VS	大阪大
	津田氏 (兵庫)	井関 (京都)		古島氏 (大阪)
③			VS	
6. 感想				
<p>今回、近畿YOCに参加させていただいたことは、自分にとって大きなステップになったのではないかと思います。</p> <p>第1日目のゲームではほとんど力の差がないチーム同士の試合だったので、流れ次第で大きく展開が変わっていく試合でした。その中で、プレーの善し悪しや、接触の責任など、今までにあまり意識できていなかったことを意識できたと思います。その中で、講師からポジショニングや笛の吹き方など基本的なことを中心にアドバイスしていただきました。基本的なことではあっても自分ではできていないことを再確認できたと思います。</p> <p>第2日目のゲームでは、全日の反省を生かしての判定を心がけました。しかし、新たな課題として相手審判とのコミュニケーションが不足してしまったことが挙げられました。初対面の相手であってもプレゲームカンファレンスやゲームのインターバルなどで十分に話しておくべきだったように思いました。</p> <p>今回の近畿YOCでの審判で自分の力の無さを感じましたが、それ以上に自分の中での審判というイメージが大きく変わったように思います。実際に判定をしていく難しさはもちろんですが、その判定がゲームに大きな影響を与えてしまうことを痛感しました。</p> <p>これから、審判としてどこまでステップアップできるかは分かりませんが、今回の経験を生かした笛が吹ければと思います。</p>				